

「北海道大好き旅」

その1

essay

九州デビュー

江別製粉(株) 企画課
ながお みちこ

昨年末、遅ればせながら三〇歳にして九州デビューを果たした。今年はもう二回、九州の地を踏んだ。ゴールデンウィークも行く予定。…完全にハマった。正直、デビューする前までは「九州は一生のうちの一〜二回行けばいいや」程度だった。特に親戚がいる訳でも、親友がいる訳でもないし…。



九州に思いを馳せはじめたのは、確か一昨年からだっただろうか…となく周りが九州づいていた。行ったことのないのに、何か神の導きがあるのかと思うくらい九州の町の名が連日私の耳に飛び込んでくる。立て続けにハマッタ友人たちが、九州で過ごした素晴らしい思い出とその魅力を熱く語るのだ。ん〜何だか行ってみたい!…徐々に興味湧いていった。

それと同時期だったろうか、「九州のムラ」という大層立派な本がたびたび私

の目の前に現れた。この本はなんだろう?どうして北海道の人がこんなにこの本を持っているのだろうか?疑問を抱きつつ、興味本位で読んでみたら:面白いのだ!登場している人みんながみんな、生き生きとしている!!「こんなに田舎が元気で面白いなんて。どうしても行ってみたい!」ますます九州への思いが募り…気付いた時には航空券を予約していた。

九州の地へ降りた私は、高鳴る胸の鼓動を抑えながら、数ヶ所のムラを訪れた。レンタカーで走り回る道中、北海道で決して見ることのない農村風景や人々の生業が作り出す景観が私を迎えてくれる。それは、想像以上に、体が震えるほどに美しいものだった。



旅の醍醐味のひとつに、住民との交流がある。その地の歴史や植生、食や政など、交流から旅人は真の情報を入手し、



大分県安心院町にある滝



ながおみちこ さん

藤女子短期大学卒
平成4年ホクレン入会
平成7年より6年間、PR誌
「Green」の編集業務を担当
現在は江別製粉㈱企画課勤務

更に旅を満喫するのだ。

その際、先方の話だけを聞くのではなく、度々自分の住んでいる町のことも聞かれ、答えなければならぬ。開拓の歴史や旬の産物、町名の由来などなど、そこで何にも地元のことを知らない自分に直面した。…これは、結構恥ずかしい。新たな出会いに感動し、地元の良さを聞けば聞くほど、北海道の素晴らしさを伝えられない自分が情けなかった。必死で地元を何度も思い返そうとした。

そうして次第に当たり前にある緑や水の豊富さに気づき始め、広大な大地や産物への思いも深くなり…少しずつ宝が見えてきた。なんでもないものが貴重に思えてくる。不思議だ。北海道に三〇年以上住んでいるのに最近新たに発見することはばかりで、ますます地元が大好きになっていく。「他を知ることとは自分を知ること」だとよく言うが、今更ながら実感しているところだ。



◆
◆
◆
安心院町へ行ったとき、ご近所が持ち寄って、ご馳走の山に！食べ物はもちろん、飲み物まで地場のものですよ。

◆
◆
◆
昨年までは単なる憧れの地であった九州が、今はたくさんの方々がいる、第二の故郷のような地に、そして地元北海道は更に愛すべき故郷となった。これからはもっと北海道を好きでいるためにも、そしてこの北海道の魅力を多くの友人に伝えるためにも、「一人」に出会う旅を続けたい！